158

稲荷原遺跡（いなりはら）

（日置郡伊集院町恋之原稲荷原）

位置と環境

稲荷原遺跡は，鹿児島県日置郡伊集院町恋之原稲荷原に所在する。

稲荷原遺跡は，伊集院町の南東から南西にかけて形成されている海抜160mの飯牟礼台地上にある。台地は東西に延びる細長い形状をし，現在台地はほぼ全域が茶畑となっており，その周辺にいくつかの集落が点在する。遺跡はこの台地の東側縁辺部にあり，西側に向かって台地の広がりが見られる。遺跡の東側は，急な斜面をもち台地のすそには，北流する下谷口川が流れ下流で市街地を流れる，神ノ川に合流する。遺跡の南側は松元町，南西部は日吉町に接しており，西側には，矢筈・諸正岳の両岳を望める。

調査の経緯

中山間地域総合整備事業に伴い，平成７年度内に上稲荷原・稲荷原・瀬戸頭遺跡が所在している事が分布調査で判明した。

分布調査の結果，平成８年度に県農政部の委託を受けて，平成８年９月10日から10月29日まで伊集院町教育委員会が調査主体となって確認調査を実施した。

この確認調査の結果をもとに，県農政部，県教育委員会，町教育委員会でその取扱について協議を行い，埋蔵文化財の保護と事業の推進との調整を図るために平成８年11月12日～平成９年３月１日まで，恋之原地区の道路およびノリ面部分についての本調査を実施した。

遺構と遺物

検出遺構は，薩摩火山灰層上で検出を行い６基の土坑が検出された。形態的には円形のものと，楕円形のものとがあり薩摩火山灰層に掘り込みをもっている。

出土遺物は，約1900点出土しそのほとんどが縄文早期の遺物で，その中には縄文時代早期前葉の３点の彩色土器も含まれ縄文文化の先進性とともに，精神性の高さを示す資料として貴重な出土遺物と考えられる。そのほかには，縄文早期・晩期の出土遺物が見られた。

第１図　稲荷原遺跡の位置

本遺跡出土の土刀器を，形態状の特徴から大きくⅠ類～Ⅶ類の７つに類別した。今回の調査においては，Ⅱ類の前平式土器が圧倒的に多く，本遺跡ではこのⅡ類土器が主体を占める遺跡といえる。

縄文時代早期の石器としては，石鏃，石槍，スクレイパー，ピエスエスキーユ，剥片石器，石斧等が出土している。

特徴

本遺跡で，出土した前平式土器の岩本タイプ土器片の内面に，帯状に赤色顔料が塗彩されたものが出土したことである。

資料の所在

出土遺物は，伊集院町教育委員会に保管されている。

参考文献

伊集院町教育委員会1998「稲荷原遺跡」『伊集院町埋蔵文化財発掘調査報告書』10

（梅北浩一）

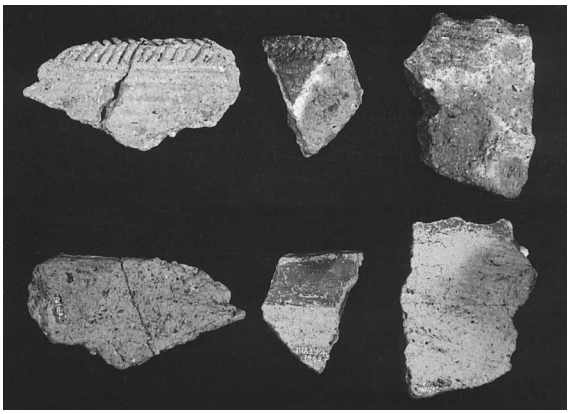
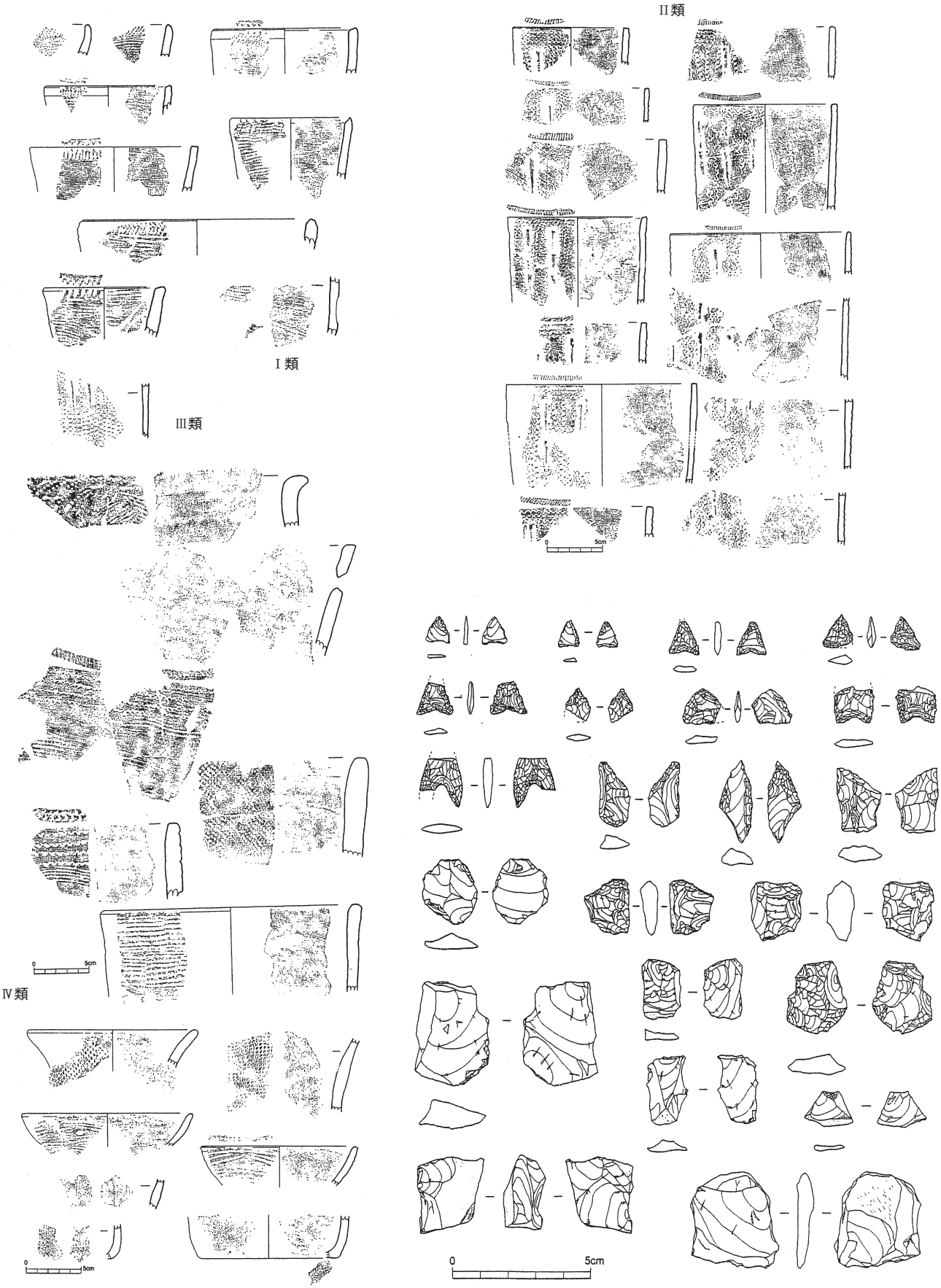


写真１　赤色顔料塗彩土器（前平式土器）



第２図　出土遺物

石器